

## 航海術修行に向かった福井藩士たち

1853年（嘉永6）黒船来航以降、幕府により海軍力の強化が積極的に図られました。同年9月の大船建造の禁止の解除、55年（安政2）の長崎海軍伝習所の設置、57年（安政4）江戸の講武所内に軍艦操練所の設置、64年（元治元）の神戸海軍操練所の設置など様々な施策が行われました

福井藩からも航海術修行を目的として、多くの藩士が江戸や神戸（兵庫表）に藩士たちが派遣されています。「土族」、「剥札」をはじめとする幕末維新期の人事資料には、63年（文久3）神戸海軍操練所の立ち上げ準備中の勝海舟の下で航海術を学ぶことを命じられたことや維新後も海軍関係者となった履歴などが記録されています。

※青色の太字…江戸時代の記述、緑色の太字…明治時代の記述

氏名	出典	関連業務等	叢書巻	叢書頁
井原 立二 <small>(ナリカズ)</small>	土族	[1860 万延元.11.25]軍艦操練為修行江戸表江罷出候様被仰付、右詰中御扶持方三人扶持被下置候 [1862 文久2.閏8.7]航海術為修行無人島二罷越候二付、銀三枚被下置候 [1863 文久3.9.17]兵庫表江罷越、勝麟太郎殿へ相手寄航海術致修行候様被仰付候 [1863 文久4.1.5]黒竜丸運用方悉皆為御任被成、船中締方等申談取扱候様被仰付、右二付万端司計局へ厚可申談旨被仰付候、且又右二付船中壱ヶ月金五両ツハ被下置候	09	153
岩村 新六	剥札	[1861 文久元.11.6]航海術修業之儀二付願之上長崎表江出立 [1862 文久2.2.29]内達之趣有之二付、航海術為修行長崎表江罷越候様被仰付候	09	177
石川 弼	剥札	[1862 文久2.2.29]内達之趣も有之二付、航海術為修行長崎表江罷越候様被仰付候 [1863 文久3.10.7]兵庫表江罷越、勝麟太郎殿へ相手寄航海術致修行候様被仰付候	09	194
石川 尚一郎	土族	[1863 文久3.10.7]兵庫表江罷越、勝麟太郎殿へ相手寄航海術致修行候様被仰付候 [1865 慶応元.5.20]航海術修行被仰付、六月十日江戸表江出立 [1867 慶応3.8.29]航海術取調方被仰付、役御番組江被入候 [1869 明治2.2.30]兵庫軍務官方至急御用有之、急速出頭有之候様御達有之二付、東京方直二出頭致候処、海軍御用掛り被仰付 [1869 明治2.2]富士艦乗組被仰付 [1869 明治2.4]富士艦副将代被仰付 [1869 明治2.7]富士艦副将被仰付 [1869 明治2.9]千代田形船長代被仰付	09	197
稲生 震也	土族	[1862 文久2.11.16]航海術修行被仰付、御扶持方七人扶持被下置、支度出来次第江戸表へ罷越候様被仰付、右修行二付諸失却之義も悉皆被下置候	09	210
上坂 多賀之助	土族	[1862 文久2.11.16]航海術修行被仰付、御扶持方七人ふち被下置、支度出来次第江戸表へ罷越候様被仰付、右修行二付諸失却之義も悉皆被下置候 [1869 明治2.11.7]海軍操練所修行生被仰付候事、同十二日出立、但支度出来次第東京江罷出、永田儀平江諸事可申談候事 [1871 明治4.2.22]今般為海軍修行英国江被指遣候事、廿六日拜命但出帆日限且委細之儀ハ追而可相達事	09	253
内田 衡 <small>(ヒトシ)</small>	土族	[1861 文久元.6.5]航海術為御用支度出来次第出府被仰付	09	258
大館 尚氏 <small>(ヒサウジ)</small>	土族	[1865 慶応元.閏5.20]航海術修行頭取被仰付、六月十日江戸表へ出立 [1866 慶応3.8.29]御書院番組江被入、航海術取調方并軍事方兼被仰付 [1869 明治2.11.7]海軍操練所出仕申付候事	10	15
加賀 九郎次郎	土族略履歴	[1860 万延元.8.21]航海術致修行候様被仰付候 [1863 文久3.10.7]兼而志願之趣も有之二付、兵庫表へ罷越勝麟太郎殿相手寄航海術致修行候様被仰付候、依之大御番筆頭頭役之儀ハ御免被成、御書院番組へ被入候 [1865 慶応元.5.20]航海術修行頭取被仰付 [1867 慶応3.8.29]航海術取調方被仰付	10	164

氏名	出典	関連業務等	叢書巻	叢書頁
野村 晋 (スハム)	士族	[1864 文久4.1.5]内達之趣も有之二付兵庫表へ罷越、 <b>勝麟太郎殿へ相手寄航海術致修行候様被仰付候</b> 、同七日出立 [1865 慶応元.閏5.20] <b>航海術修行被仰付</b> 、六月十日江戸表へ出立、卯七月三日帰 [1867 慶応3.8.29] <b>航海術取調方</b> 并算科局測量師兼被仰付、役新番組江被入候	13	12
長谷部 連人 (ツラト)	士族	[1860 万延元.8.21] <b>航海術為修行江戸表江罷出候様被仰付候</b>	13	59
山口 作弥	士族	[1862 文久2.11.16] <b>航海術修行被仰付</b> 、御扶持方七人扶持被下置、支度出来次第江戸表へ罷越候様被仰付候、右修行二付諸失却之義も悉皆被下置候	14	153
長谷部 卓爾	子弟輩	[1863 文久3.10.7]兵庫表へ罷越 <b>勝麟太郎殿へ相手寄航海術致修行候様被仰付</b> 、同十三日出立 [1865 慶応元.8.12] <b>航海術修行被仰付</b>		
川地 弥作	子弟輩	[1869 明治2.11.7] <b>海軍操練所修行生被仰付候事</b> 、同十二日出立 但支度出来次第東京江罷出永田儀平へ諸事可申談候事		
加藤 鍊之介	子弟輩	[1860 万延元.7.20] <b>軍艦操練為修行江戸表へ罷出候様被仰付</b> 、右詰中御扶持方三人扶持被下置候、八月十日出立 [1862 文久2.閏8.7]先達而 <b>航海術為修行無人島へ罷越候</b> 二付銀三枚被下置候 [1863 文久3.9.17]兵庫表江罷越 <b>勝麟太郎殿江相手寄航海術致修行候様被仰付</b> 、同十八日出立、十二月四日京都方帰、同八日又々同所江出立 [1865 慶応元.閏5.20] <b>航海術修行頭取被仰付</b> 、六月五日江戸表へ出立、卯七月六日帰 [1867 慶応3.8.29] <b>航海術取調方</b> 并軍事方兼被仰付  [1872 明治5.1.29] <b>海軍中尉 大坂丸乗組</b>		
福嶋 弥太六	子弟輩	[1865 慶応元.閏5.20] <b>航海術修行被仰付</b> 、六月十日江戸表へ出立、同三卯二月十九日帰  [1871 明治4.11.20] <b>海軍少佐 正七位</b>		
佐々木 栄 (三上 栄太郎)	子弟輩	[1864 文久4.1.5]内達之趣も有之二付兵庫表へ罷越 <b>勝麟太郎殿へ相手寄航海術修行被仰付候</b> 、同七日出立、二月朔日兵庫表方帰着、同十八日折返シ出立 [1866 慶応2.6.16]一橋様御附木村宗三方へ指遣英学并 <b>航海術修行為致度旨願濟之事</b>		
下山 貫雄 (雄五郎)	子弟輩	[1869 明治2.11.7] <b>海軍操練所修行生被仰付候事</b> 、同十二日出立 但支度出来次第東京江罷出永田儀平へ諸事可申談候事		
武田 庫次郎 (三吾事)	子弟輩剥札	[1865 慶応元.閏5.20] <b>航海術修行被仰付</b> 、六月十日江戸表へ出立、卯七月三日帰 [1867 慶応3.8.29] <b>航海術取調方被仰付</b> 、右勤中忒人ふち被下置候		
鈴木 郁郎 (日比野 郁郎)	子弟輩剥札	[1864 元治元.10.23]大坂補兵隊へ被入候、 <b>航海術其儘</b>  [1870 明治3.4.19]先年方 他国修行相願兵庫表二罷在候処 <b>今度帰商仕同所居住願之通被仰付</b>  ※参考 「士族」鈴木平馬(郁郎の兄)に記述 … 『福井藩士履歴』3 P219 [1870 明治3.4.14]弟郁郎儀先年航海術修行、 <b>他国罷越、然ル処二十四ヶ月満候節ハ一段帰家仕候御法有之候処、只今ニおみて相帰り不申、全申付方不行届恐入遠慮伺之上指扣、同十七日御免</b>		
尾崎 佐大夫	新番格以下	[1864 文久4.1.5]京都二而内達之趣も有之二付兵庫表へ罷越 <b>勝麟太郎殿江相手寄航海術致修行候様被仰付</b> [1865 慶応元.8.12] <b>航海術修行被仰付候</b>		
牧本 達輔	新番格以下増補雑輩	[1862 文久2.11.16] <b>航海術修行被仰付</b> 、御扶持方七人扶持被下置、支度出来次第江戸表江罷成候様被仰付候		
八田 祐次郎	新番格以下増補雑輩	[1869 明治2.11.7] <b>海軍操練所修行生被申付候事</b> 、同十二日出立 但支度出来次第東京江罷出永田儀平へ諸事可申談候事 [1871 明治4年.2.22] <b>今般為海軍修行英国へ被指遣候事</b> 廿六日拜命但出帆日限且委細之儀ハ追而可相達候事		

※この一覧表は、以下の資料についてキーワード検索を行った結果を集約しています。

●資料 … 「剥札」、「士族」、「士族略履歴」、「子弟輩」、「元陪臣」、「新番格以下」、「新番格以下増補雑輩」  
(いずれも松平文庫、福井県立図書館保管)

●検索キーワード … 「航海術修行」、「兵庫表」、「長崎表」、「勝麟太郎」、「軍艦」、「海軍操練所」、「海軍伝習所」